

第1188回教育委員会（定例会）会議録

公開

1 日時場所

令和8年2月13日（金） 午後2時
県庁教育委員会室

2 出席者

太田教育長、小林委員、井口委員、三井田委員、松山委員、吉田委員
（事務局）小川教育次長、明間総務課長、石黒財務課長、佐藤福利課長、
川村義務教育課長、頓所高等学校教育課長、石山生徒指導課長、
庭野生涯学習推進課長、志田保健体育課長、外山教育センター所長、
総務課企画主幹、総務課長補佐、総務課総務係長、総務課総務係主事

3 開会

午後2時

4 議事日程の承認

第1189回教育委員会の議事日程及び議事順序を承認した。

5 会議録（公開分）の承認について

第1188回教育委員会（定例会）会議録（公開分）を承認した。

6 審議議案

第41号議案 博物館登録等の手続に関する規則の一部改正について

事務局から、博物館登録等の手続に関する規則の一部改正について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

7 その他

(1) 令和7年度全国都道府県教育委員会連合会第2回総会等について

事務局から、令和7年度全国都道府県教育委員会連合会第2回総会等について報告があった。

なお、次のとおり質疑、意見等があった。

小林教育委員

総会は毎年この時期に行われまして、それに合わせて翌日に北部ブロック協議会もやっている。今回は両方とも「公立高校の魅力向上」というテーマだった。

総会では、私と教育長と参加させていただいて、資料にある通りの日程で行った。基本的には文科省の説明と、その後の分科会とい

う流れとなるが、今までの総会の中で一番文科省さんも気合いが入っているというか、そして我々の方もこれからやらなくてははいけないぞというふうな、そんな雰囲気だった。

内容については、新潟県でも公立高校の魅力向上という中で、例えばスクールミッションとかスクールポリシーとか、その辺の再定義も含めて進めていただいたり、普通科の改革といったところも盛り込みながら昨年、基本構想と再編整備の計画を提出したところである。去年の春頃に高校の無償化の話が三党合意した時から、少し様子が変わってきて、今年度の暮れには N-E. X. T. (以下:ネクスト) ハイスクール構想が出てきて、全国で 3000 億の基金を積みましようという話が出てきた。

文科省も気合いが入ったという言葉があっているかどうか分からないが、本気になってきたなというのを今回、そのネクストハイスクールの構成を聞いて感じたところ。

これについては、資料にもある通りで、ざっくり説明すると、真ん中のアドバンスト・エッセンシャルワーカー等の育成支援、その隣が理数系人材育成、そして多様な学習ニーズというこの3つの視点で、それぞれに1校ずつ設定をして、支援する。支援というかパイロット的な役割。とりあえず、やってみてという雰囲気の中で、お金もかなりつく中で実施をする。

なぜというところが前段に書かれている部分で、2040年問題と言われている理系人材が不足するといったところの段が、一番強いのかなという感じで書かれている。この3点のやり方については、文科省の中で制約がかなりあるみたいだが、それぞれの県に任せるといふふうな話だった。

制約については、例えばハードに使ってははいけないとか、正規の職員に使ってはいけない等あった。

先ほどの新潟県の基本構想や再編整備の中でも、かなり謳われている部分があり、その辺をどう整理して、このお金を有効に使うという部分の中では、文科省も言っていたが、文科省も文科省だけではできない。例えば経産省とか、国交省とか、農林水産省、そういった大陸横断的な形で連携しないといけないという認識のもとやっている。我々としても、ここにいる方はもちろんだが、その他の方達も含めて、やっていかなければいけないのかなという認識を少し新たにした。

次の資料は、文科省が示した図だが、これは綺麗に見えるがやるのは難しいというか、これは本当にできるのかみたいな感じ。これをやっていかないと、成果が出ないというのが文科省の言葉なので、我々もこれに近づけながら、これをベースで考えながら計画を進めなくてははいけないと思う。

今の小学生ぐらいの方が、対象になってくるのかなと思うが、そ

の方たちに選ばれる高校づくりをしていく。今、再編整備とか計画を立てているが、それもてこ入れをしながら、少し足早にしないと間に合わないのかなというふうに思う。

それと、基本的にはこの3000億は、ベースは公立高校になる。ただ、私立高校は使えないわけではない。その辺も含めて、まずは我々公立高校の方でどういう絵を書くのかというところが大事になってくる。先ほどの、既存の計画との整合性を図りながら、どういう設計図、或いはスケジュールを組むのかといったところが、この2、3ヶ月が勝負かなという感じもある。

文科省は5月ぐらいには計画を出してくれという話があったので、そこへ向けて力を結集しながら、或いは3000億の中で使っている中で、伴走支援というかそういう費用が含まれている中で、プロの方というのはおかしいが、例えば文科省の方とか、そういう方とも連携しながら計画を進めなくてはいけないと感じながら帰ってきた。

私も教育委員になってかなりの年数になるが、今までの中で一番ターニングポイントというか、特に高校なので、我々が直轄のところでもあるので、ここは気合を入れてやっていかないと県によって差が出て来る。文科省からこれやりなさいという時代ではなく、そういう世界でこれからやっていかないといけないなと感じた会議だった。

頓所高等学校教育課長

文科省の都道府県別の個別の説明会があり、オンラインで参加した。小林委員のご指摘の通り、新潟県の将来構想とネクストハイスクールが、かなり方向性が似ている部分があるので、この構想を最大限に活用して目指す姿にしていきたい。今は申請に向けて準備している。

太田教育長

今、課長から説明があったように連携体制の構築を見ると、本当にこれでできるのかというのもその通りだと思うが、例えば今、産業高校の設置に向けて準備を始めている中で、実はそのスキームはこのスキームのような形で、地域の産業界の方にも入っていただいて、一緒に作り上げるというような形になる。これからは外部と連携しないと仕事は進まないなという感じはする。

井口教育委員

大体3000億円の額で47都道府県に分配されるといって60億ぐらいのお金が来るといって、60億をその単年度で使うわけではなくて、基金を作って何年間に渡って抽出しながら使っていくという考え方になるのか。

太田教育長

3年間というふうに言われている。ただ金額は、まだ全く示され

ていない。

井口教育委員

補正予算でこの額がもう確定ではないということか。

太田教育長

確定ではない。全体の3000億は確定だが、どれだけ配分されるかというところまではまだ。

井口教育委員

それは各県の計画を見てそれぞれに配分額が決まるのか。

太田教育長

一応、事務の費用は、先に少し配られるようだが、そのための基金にするということはあるが、事業自体で幾らというのはまだこれから。

井口教育委員

計画によっては額が大きく増減する可能性もあるので、しっかりしたものを作る必要があると。

小林教育委員

ただ1回きりではなくて、そのあとも交付金制度になるそうだ。

太田教育長

暫定的に基金という形で、積んで使ってくださいということだが、財源を見つけて、ゆくゆくは交付金で毎年来るみたいなことを文科省は考えている。

ただ、財源を見つけてくるのは、ものすごく大変だと思う。そこが各省庁、腕の見せどころで、どちらかということだと文科省は今までそういうところがあんまり。期待はしているが。

小林教育委員

逆に成果がないと、財務省は動かないと思う。

太田教育長

基金の使い方、あまり使われなかったりすると、その後の交付金の議論にも繋がって縮小したりするので。ここは各県しっかりと対応しないといけない。

小林教育委員

文科省の人から個別に話を聞いたが、のけ反るような企画を出してくれと言っていた。

井口教育委員

僕は大学の方で、いろいろな文科省から特別な予算でお金をもらうことがあるが、文科省のお金は毒饅頭と言われていて、最初だけぼんと来て、後にガタガタガタと減っていく。最初に人件費を盛り込むと最後は本当にカツカツになって苦しむことが多い。

教育は数値で出てこない部分が多いし、2～3年で結果出るものではない。

太田教育長

文部科学省の予算も義務教育は当然措置されるし、大学とか高等教育も元々国立大学を自前で持っていたので、そういう予算もあった。

高校だけが交付税で措置をされたり、直接的な補助があんまりなかった。そういう意味では本当に、小林委員がいったようにターニングポイントになったのかなという気がする。

小林教育委員

ただ、これも全国一律の考え方で、文科省の資料には例えば郷土愛とか出てこない。「理数系が減りますよ。だからこうしましょう。」というふうなことしか出てこない。

もしかしたら、これをやっていくと逆にまた人口流出になるという可能性も無きにしもあらず。我々が書いた構想は、第一文にそれが書いてある。それを忘れずに推進していかないと。蓋を開けたら全国一律みたいな話の中でもやらなきゃいけない可能性もある。

太田教育長

文科省が示したこの3本の柱のうち2本も、経済産業省が、経済財政諮問会議に出した資料があり、2040年にどの分野でどれだけ不足するのかとか、逆に人が余るのかとか、そういう資料をもとに考えたような感じがする。

小林教育委員

でも最後に選ぶのは子どもたちなので。

(4) 令和8年度新潟県公立高等学校入学者選抜特色化選抜の実施状況について

事務局から、令和8年度県立中高一貫教育校入学者選抜の結果について報告があった。

以上で、公開分の日程を終了した。

第1189回教育委員会（定例会）会議録

非公開

- 8 公開分に引き続き、非公開と決定した議事に入った。
- 9 会議録（非公開分）の承認について
第1188回教育委員会（定例会）会議録（非公開分）を承認した。
- 10 審議議案
第42号議案 令和7年度2月補正予算について
事務局から、令和7年度2月補正予算について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

第43号議案 新潟県立学校条例の一部改正について
事務局から、新潟県立学校条例の一部改正について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

第44号議案 教職員の人事措置について
事務局から、教職員の人事措置について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

第45号議案 教職員の人事措置について
事務局から、教職員の人事措置について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

第46号議案 教職員の人事措置について
事務局から、教職員の人事措置について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。
- 11 その他
 - (2) 令和8年度北部ブロック道県教育委員協議会について
事務局から、令和8年度北部ブロック道県教育委員協議会について報告があった。
 - (3) 令和8年度当初予算案について
事務局から、令和8年度当初予算案について報告があった。
 - (5) 県立学校の生徒指導状況について
事務局から、県立学校の生徒指導状況について報告があった。
- 12 審議議案
第47号議案 令和7年度末・令和8年度初義務教育諸学校校長の人事異動について
事務局から、令和7年度末・令和8年度初義務教育諸学校校長の人事異動について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

第48号議案 令和7年度末・令和8年度初県立高等学校長等の人事異動について
事務局から、令和7年度末・令和8年度初県立高等学校長等の人事異動について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

13 閉会
午後3時42分